

特56

262

祝詞考

地

東 京 圖 書 館

三	五	三	神	和
冊	號	架	函	書
			類	門

東周館

新嘗月廿二日卯
辰言此朝の日の
初禰の神食を朝々
諸神は奉りて大官南
食也神食新嘗
あはれいも二度六
月十日十二月同日も
夕々を食せし神嘉
殿、幸くもも香登
御親祭をまじし
是即月次幣と諸神
へまじりて其社々
にまじりて其社々
の下の諸神と皆
御親祭をまじりて
相嘗といふ神令
食といふの新嘗

祝詞考中卷

大殿祭

宮内省式に神令食新嘗二祭明日平且大殿祭此二祭は前後
貞親儀あり祭前者不奏向無賜録と云々省輔省員已上率
まじりておはせ給ふと云々不祀録の初めと云々
諸忌部等至延政門令大舍人呼門の中重東面より南方より一
つも殿の海圍司傳宣如常輸入奏其詞曰宮内省申久大殿祭
庭へ出御保掌供奉神祇官姓名率忌部候登申〇四時祭式も
能保加比也
右神令食明日平且三代実録より六月十二日の平且
也〇この下の式はかきかきしるべきなり貞親儀式の式は
い後、神祇官以管四令一合納米一合納酒一合納酒
神部四人申之中臣忌部官人宮主史生神部等著水綿左右相
分前行御巫列案後至延政門外置案篋子上掃部寮大舍人
預設之

祝詞考中

〇一

魯美之命以 皇御孫之命 乎天孫彦火

天津高御座 爾坐 氏 坐の上の令の 天津

乃鏡 乎 乎八尺向瑤を奉りては後制令よも鏡

○公式今も神蓋を不用し者御印と名傳されし神印の

○伊邪那伎の命は鏡を伊邪那岐の命に授けし事記に伊邪那伎命は天照大神神としませし其御頸珠之緒母由良迹取由良迦志而賜天照大神神而詔曰汝命者所知高天原美乎神代紀一書曰大汝貴命曰天照孫命乎の命を讓りて返給す時即躬被瑞之八坂壇而長隱者矣有乎て孫は時天照大神神の詔は是副賜遠伎斯八尺向瑤鏡及州那藝劍云云と古事記よき事なりを以て彼一書よ曲玉鏡劍と三種神寶といふゆへに

宣 久 皇我 宇都乃御子皇御孫

○祝詞考中

三

ノ命

神代紀一書。勅皇孫曰。葦原十五百秋之瑞穂國是吾子孫之命。可王之也。宜爾皇孫就而治焉。行矣。寶祚之隆。當與天壤無

高御座

爾。もと上より下る。天より此高御座より。此乃天津

天津日嗣

乎。日嗣。日之神の所。天津日嗣。天津日嗣。天津日嗣。天津日嗣。

千秋乃長秋

爾。安國。大八洲。豐葦原。乃葦原。乃葦原。乃葦原。乃葦原。

瑞穂之國

乎。瑞穂之國。瑞穂之國。瑞穂之國。瑞穂之國。瑞穂之國。瑞穂之國。

奉賜

氏。皇祖神。諸神。奉賜。奉賜。奉賜。奉賜。奉賜。奉賜。

國止

古語。志。國止。國止。國止。國止。國止。國止。

平久所知

食止。平久所知。平久所知。平久所知。平久所知。平久所知。

建御雷

神。建御雷。建御雷。建御雷。建御雷。建御雷。建御雷。

量

氏。皇祖神。諸神。量。量。量。量。量。量。

事問

之。事問。事問。事問。事問。事問。事問。

磐根木根

乃立。磐根木根。磐根木根。磐根木根。磐根木根。磐根木根。

草能

可岐葉。草能。草能。草能。草能。草能。草能。

言止

氏。言止。言止。言止。言止。言止。言止。

出

氏。出。出。出。出。出。出。

支利久比

言。支利久比。支利久比。支利久比。支利久比。支利久比。

新撰字鏡

支利久比。新撰字鏡。新撰字鏡。新撰字鏡。新撰字鏡。新撰字鏡。

支利久比

言。支利久比。支利久比。支利久比。支利久比。支利久比。

○祝詞考中

○

天降利賜アノクダタマヒ志シ食國天下ヲスクニノアメノシタ登ト古事記の食國訓食

天津日嗣所知食須皇アツツヒツギシロシメスヒ

御孫之命乃御殿乎今奥山乃大峽ミミコノミコトノミミアカノイマノオクヤマノオホガヒ

小峽爾立留木乎峽ハ山と山此同也万葉山コノカヒニタテルキハノカヒノヤマトヤマコノトナリトモイフヤマノ

齋部能齋斧乎以伐採イハムベノイハムツノイハムキリトリ

氏テ負既後式テ大嘗官條ヲ樞実下部ヲ率造酒童女同郡司各一人物ヲ

部男六人子等五人ノ工十人夫等ノ為採内院料材ヲ向食山即祭山ニ

神其料云ニ供物等ヲ祭畢造酒童女先執齋斧伐樹ヲ正西次之役ヲ父次之ヲ

訖ヲ歸來ニの敷ヲ老の造ニ材ヲ忌部ノの山ノ出ル乎ヲ

山神爾祭氏ハ中間乎持出ハ本末ハ波乎ハ

來キ氏ハ今ハ遠ニ人ノ大木ヲ伐テ之ヲの梢ヲ折リ切リ乎ヲ

齋鉏乎以齋柱乎立ハ氏ハ前ニ大被ヲ乎ハ

始作内院雜殿造酒童女執齋鉏ヲ稻實殿ノ四角柱ノ物部次之ヲ後夫次ヲ

之ヲ心ヲ也ハ也ハ柱ハ也ハ童女ノ始ニ乎ハ也ハ也ハ也ハ

皇御孫之命乃天之

御翳日之御翳止

仕禮瑞之御殿乎

汝屋船命爾

天津奇護言

天津奇護言... 天津奇護言... 天津奇護言...

乎古語久須志

伊波比許登

言壽鎮白

此乃敷坐大

宮地波次

極美地

之綱

根

風王記の楯維郡の綱... 綱之類謂

神代紀書曰汝... 住隅宮者今當供... 造即以小舟梯繩結... 百八十經。顯宗紀室... 築立柱云云風王記... 五十足天日柵宮之縱橫... 柵置千尋梯綱持而... 百八十結下而此天

御量持而統天下
天神之宮 隆奉 請命
焉。

。愛長はるもれり
。くまののののの
。天の神の如く
。天の神の如く
。天の神の如く
。天の神の如く
。天の神の如く

下於綱極とりのののの綱も後世は如くあるは葛とさき系

。波府蟲能禍無 波府蟲を地よけは蛇虹の類也上つ代

内はら昆虫の害あつたを神代紀一書に大己貴少彦名命云云為

。極美天乃血垂飛鳥乃禍無 極美天乃血垂飛鳥乃禍無

。高天原 波 青雲乃靄 高天原 波 青雲乃靄

。御床都比能佐夜 御床都比能佐夜

。堀堅留柱桁梁 堀堅留柱桁梁

。戸牖乃錯伎古語云云 戸牖乃錯伎古語云云

。引結弊葛目能緩比 引結弊葛目能緩比

。取菅計草乃噪 取菅計草乃噪

。岐古語云云 岐無久 岐古語云云 岐無久

。草也具中乃御床都比能 草也具中乃御床都比能

。御床都比能佐夜 御床都比能佐夜

。堀堅留柱桁梁 堀堅留柱桁梁

。戸牖乃錯伎古語云云 戸牖乃錯伎古語云云

。引結弊葛目能緩比 引結弊葛目能緩比

。取菅計草乃噪 取菅計草乃噪

。岐古語云云 岐無久 岐古語云云 岐無久

。草也具中乃御床都比能 草也具中乃御床都比能

。御床都比能佐夜 御床都比能佐夜

。堀堅留柱桁梁 堀堅留柱桁梁

。戸牖乃錯伎古語云云 戸牖乃錯伎古語云云

乃以辟木束稱置於戶邊。乃以米散屋中之類也。

乃以米散屋中之類也。乃以米散屋中之類也。乃以米散屋中之類也。

御名 波奉稱 皇御孫命 乃御世 乎
 堅磐 爾常磐 爾奉護 利五十檀 御世
 乃五十檀 足志 御世 爾田永能 御世 登

續日本紀云天平十五年九月...

田借... 奉福 爾依 齋玉 作等 我持
 齋利 麻波 持淨 利麻波 造仕 留瑞 八尺瓊
 能御吹 乃支 五百都 御統 乃玉 爾齋玉 忌

一の...
 源...
 一...
 氏...
 上...
 曜和幣乎附
 齋部宿禰某
 我宿禰と云ハ借...
 本皇...
 弟...
 弟...
 弟...
 弟...

〇加藤...
 〇古...
 〇左...
 〇右...
 〇雄...
 〇新...
 〇神...
 〇備...
 〇者...

〇後人...
 弱肩爾大襠取懸
 鎮奉事能漏落武事
 直日命
 直志見直志平
 良氣安久良氣所知食登白
 詞別白久大宮賣命登御名乎申事
 波古語拾遺大宮賣命ハ...
 今...

孫命乃同殿能裏爾塞坐参入罷出
 人能選比所知志カミナチ神等
 能伊須吕許比阿禮比坐乎言直志
 和志ヤハ古語コゴ坐マシ氏ウヂ伊須吕許比の伊ハ塞言の伊須
ハ須呂の阿許比の伊ハ塞言の伊須
 顔オモ波ナミ志シ坐マシ氏ウヂ
て顔は伊也この右もいふもくふらるるはあさす
の國人競合す率とさる若く男はすもよ事あはれさ
さあがもはるるのさあかあさるる神とさる
しるるひま
 皇御孫命朝乃御膳夕乃
 女神の功なり

御膳仕奉流比禮懸伴緒
御膳仕奉る流比禮懸伴緒
おのゝ色織敷式の中宮領巾四條料紗三丈六尺九尺の襦懸伴
万におもひ比流もいほるるはよあさるる也
 緒ヲ乎ハ序シとシ造シ男ヲ也也業ノ人ハ襦ヲ乎ハ既ニ是ノ部ノの
帯と組するにいふが也。○伴緒ハもはるるの伴
あさるるはるるの何はあさるるのさあかあさるるのさあかあさるるの
よ部のさあかあさるるの何はあさるるのさあかあさるるの
かさるるのさあかあさるるの何はあさるるのさあかあさるるの
とさるるのさあかあさるるの何はあさるるのさあかあさるるの
職員令の采女六十人延喜采女司式の采女四十人といふはるるの同令
内膳司の膳部六十人掌達御食といふはるるの御食又仕奉る
時男を採女とテノイハカニアシノイカニ
領巾と用はるる
 手躰足躰古語不令為氏
麻我比不令為

朝波開門夕波開門
参入罷

出人名乎問所知
志御門守れおぎを即
答適

在波神直日大直日
爾備ハ万利の約よ
辭也

見直聞直坐
氏御門のお入り
然過あさまさの
今

平良氣安良氣
令奉仕賜

故爾櫛磐牖命豐磐牖命
登御名乎

稱辭竟奉
登久白

○六月晦大祓
准之

後ちちの古事記に伊弉那伊弉美命に到りて穢
を祓はるる事云々

大御身を祓はるる事云々

又須佐能

男命を祓はるる事云々

後ちちの古事記に伊弉那伊弉美命に到りて穢

を祓はるる事云々

大御身を祓はるる事云々

○みまの御祓
大御身を祓はるる事云々

体のまゝに...
 親王...
 紀...
 神留神集...

被給比清給
ハカシメテヒキヨクシメテ

事乎諸聞食止宣
コトヲモトキキコシメテ

...

...

高天原爾神留坐
タカハラニカミツリニシメス

漏伎神漏美命以
ロギノカミロミノミコトモチ

神等乎神集集賜比
カミタチヲカミツトハシメタマフ

...

我皇孫之命
ワガミマツノミコト

豐葦原乃水穗之國乎
トヨアハラノミヅホノクニニ

所知食止事依奉
シロシメセトコトヨリニツク

此依志奉志國中爾
コノヨリシメニツクニナカニ

神問
カミトハ

賜
タマフ

掃爾掃賜
ハラヒハラヒタマフ

...

景行天皇紀の天神
...
紀伊國の國
...
紀伊國の國

披雲駐山輝
天降依佐志
奉支如此久依佐志奉志四方之國
中
大傳
日高見之國

景行天皇紀の東夷
之中有日高見國同
紀伊國上給轉陸奧
高見國環由南海常
陸至甲斐式陸奧
國桃生郡日高見神
社

安國止定奉
下津磐根
爾官柱太
數立高天原
尔千木高知
既皇御
孫之命乃美頭
乃御舍仕奉
天之

舒明天皇紀曰大星
從東流西音以雷
時人曰流星音亦雷
於是增其雷曰非流
星是天狗其大雷
後雷乎これら
邪とらふまを

の上よりつづべ。仍て考ふに、右の「大星」は、
つづべつづべと、直々の見事、高野とつづべつづべと、
人古之羅羅とつづべつづべハ乱して、或ハ文の前後、
ハ高野とつづべつづべも考ふ人の、
高津神 乃 **災** 履仲天皇紀。有如風聲呼於大虚曰。劔刀太
子王也。亦呼曰。身往來羽田之。汝妹者。羽狹丹
葬立往。示曰。狹名來田。蔣津之命。羽狹丹。葬立往也。俄而使
者急來曰。皇
妃薨。云云。天皇悔之。不治神。崇而亡。皇妃更求其咎。或者
車持君。行統紫
國而悉。救車持部。兼取。充神者。必是矣。天皇到。喚車持君。以推問之。事既
實。焉因以數之罪。曰。爾雖車持君。縱檢校天子。百姓罪一也。既分寄于神
祇。車持部。兼奪取之罪。二也。則負惡。解除善。解除而
於長緒崎。而令被擽。云云。毛々々々。高津鳥 乃
高津鳥 乃 **災** 下は却崇神也。天稚彦及言不申。高津鳥殃亦依。此處身
亡也。云々云々。高津鳥の危を考ふ所の、

。仇とらふまを
。毛々々々々々
。頻々々々々々
。頭とつづべつづべ
。其致とつづべつづべ
。又土佐國とつづべ
。今本、官事、一本
。官事とつづべつづべ
。つづべつづべつづべ
。つづべつづべつづべ

怪き、定てきとらつづべつづべ。上の大星、
。い、つづべつづべつづべ。人の文、
。出、つづべつづべつづべ。起、
。て、つづべつづべつづべ。怪、
。大、つづべつづべつづべ。高、
。べ、つづべつづべつづべ。海、
。も、つづべつづべつづべ。あ、
。あ、つづべつづべつづべ。罪、
。許、つづべつづべつづべ。武、
。如、つづべつづべつづべ。天、
事以 氏 皇祖神の御部と奉て宣ひ、
科素盞尊千座置戸之解除以手、
吉川棄物

○此世よりまはし
 くれハツの馬耳を振
 きてあふハツがれ
 るも、上より
 ○馬耳は、
 のふれもつれど
 よ醒てらる。

此失波。天皇我朝廷爾仕奉留官々
 人等乎始氏天下四方爾自今日始
 罪止云布罪波不在止高天原爾
 耳振立聞物止馬牽立氏今年六月
 晦日夕日之降乃大被爾被給比清
 給事乎馬耳疾歎乎神乎神の
 所知食年事の志多来といへども之を
 諸聞食止宣

○諸國とて、
 大宰府、
 今、
 上、
 四、

百官称唯て、
 四毛國ト部等大川道爾
 持退出被却宣
 官取下、
 者五人對馬、
 し、
 り、
 〇新詞考中
 〇三

天皇家御氣あまのみけをうけりし。呪曰東至あきた扶桑あづま西至あにし

虞淵あそ南至あきた炎光あき北至あきた弱水あじき千城あき百國あき

精治あき万歲あき

文部省遠祖此時を傳れる云々ハキマツル
詞の上下存一ノ意ハ用者ノ一ニモ下平ノ氣也
ノ上ヨリ用者ノ一ニモ下平ノ氣也
ノ上ヨリ用者ノ一ニモ下平ノ氣也

祝詞考中卷 終

